表現・説明資料

油絵について

２年　　組　　番　氏名

油絵とは…

（　　　　　　）（色のついた粉）を　　　　　　　で練ったもの。

現在のようなチューブ入り絵の具ができたのは　　　世紀中ごろ。

ちなみに、顔料をアラビアゴムで練ったものが　　　　　　　　絵の具

顔料をアクリルエマルジョンで練ったものが　　　　　　　　絵の具

顔料を膠（にかわ）で練ったものが　　　　　　　　絵の具

顔料は（　　　　）（　　　　　）（　　　　　）（　　　　　）など様々な物質を砕いたり、科学的に合成したりして作られる。

油絵の特徴（主に水彩絵の具と比べて…）

　１　厚塗りができる。（もちろん薄塗りもできる。）

　　　→○ゴテゴテと塗ったり、なめらかに塗ったりしてさまざまな「絵肌」をつくることができる。

　　　　○厚塗りをすると不透明に、薄塗りをすると透明に絵の具を置ける。

　　　　△厚塗りをするとなかなか乾かないので、計画的に塗る必要がある。

　２　乾くと溶けないので、重ね塗りができる

　　　→○重ねて塗ることで深い色味を出すことができる。

　　　　△筆やパレットに絵の具がついたままだと固まって使えなくなる。

３　乾くのが遅い

　　→○色を画面上で混ぜたり、ぼかしたりすることができる。

　　　△乾かないうちに重ねると下の色と混ざって濁る。（わざと濁らせる塗り方もある。）

使用上の注意点

　１　服や机などにつかないようにする！

　　　・一度つくと完全に落とすのは困難。

　　　・もしついた場合は、布に「ブラシクリーナー」を浸してふき取る。

　　　・エプロンやスモック、ジャージなどを着てくるとよい。

　　　・「ぼろ布」を持ってくる。拭き取りや筆の代わりになる。

２　道具の後片付けは「絵の具をふき取る」と「ブラシクリーナーで洗う」。

　　　・筆は「ふき取る」→「ブラシクリーナー」→「ふき取る」

　　　・板パレットは「ふき取る」。紙パレットは「一枚はがして捨てる」

　　　・油の皿も「ふき取る」。残った油も流しには流さない！

基本的な使い方・表現の工夫

　１　重ねて色の深みを出すようにする。



２　広い部分を先に塗り、細かい部分は後にする。



３　明るくしたいときは白を混ぜる。



４　絵具が伸びにくい時は油を混ぜる。混ぜないでそのまま塗ってもよい。

５　筆以外にペインティングナイフや布などを用いて塗ると表現の幅が広がる。



６　乾いた絵の具の上に油で薄めた絵の具を塗ると、下の色と重なって色の深みが出る。

（グレーズ技法という）

　７　細かい線などは、自分のアクリル絵の具用の筆を使ってもよい。その際、使い終わってブラシクリーナーで洗った後、さらに流しで石鹸を使ってよく絵の具を落としておくこと。

　８　完全に乾いた部分は紙やすりなどで削ることで複雑な絵肌を作ることができる。